art resonance vol.01

Defrosting Time: Art Across Generations

芦屋市立美術博物館

本展は、現代を生きる作家4名が創作者としての視点や手立てをもって、当館コレクションを調査・研究し、新しい観点や価値観を提示するとともに、隠れていた側面に一筋の光を当てる試みである。



山崎つる子《作品》1964年　ビニール塗料、綿布、板
©Estate of Tsuruko Yamazaki, courtesy of LADS GALLERY, Osaka



1



2



3



4

1. 堀内正和《作品－B－》1954年　鉄　2. 田中敦子《カレンダー》1954年頃　インク、紙、鉛筆、コラージュ　©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association　3. エミール＝アントワーヌ・ブールデル《デモステネスA》1927年　テラコッタ　4. 柳原義達《黒人の女》1956年　ブロンズ

2023年10月28日（土）
――2024年2月4日（日）

時　代　の　解　凍

開館時間＝10:00－17:00（入館は16:30まで）／休館日＝月曜日（ただし、1月8日は開館、1月9日は休館）、年末年始（12月28日－1月4日）／観覧料＝一般800（640）円、大高生500（400）円、中学生以下無料
※（ ）内は20名以上の団体料金　※無料観覧日＝2023年11月11日（土）、12日（日）［関西文化の日］　※高齢者（65歳以上）および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちの方ならびにその介護の方は各当日料金の半額　※リピート割引＝本展チケットの半券をご提示いただいた方は、団体割引料金でご覧いただけます。（1枚につきお一人様1回限り、他の割引券との併用不可）

主催＝芦屋市立美術博物館
後援＝兵庫県、兵庫県教育委員会、NHK神戸放送局、公益財団法人 兵庫県芸術文化協会、神戸新聞社、Kiss FM KOBE
助成＝公益財団法人 花王 芸術・科学財団、公益財団法人 野村財団、公益財団法人 神戸文化支援基金
協力＝太陽工業株式会社、株式会社淀川製鋼所、株式会社桝弥、株式会社八田、一般社団法人 山田正亮の会、ShugoArts

藤本由紀夫／山崎つる子　高橋耕平／津高和一
野原万里絵／山田正亮
黒田大スケ／田中敦子、堀内正和、柳原義達
エミール＝アントワーヌ・ブールデル

時に窓を開け、

［会期中のイベント］

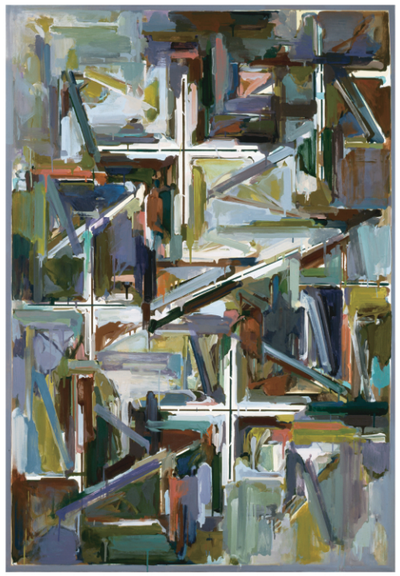
●ART MARKET あしやつくるば
2023年11月11日（土）、12日（日）
10:00－16:00

●まなびはく
「アーティストとして生きていくために」
2023年12月16日（土）14:00－16:00
講師＝天野太郎（オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター）

*詳しくは当館HPをご覧ください
ashiya-museum.jp



津高和一《声》1956年　油彩、カンヴァス



山田正亮《WORK F.1》1990年　油彩、カンヴァス

※すべて当館蔵

art resonance vol.01

Defrosting Time: Art Across Generations

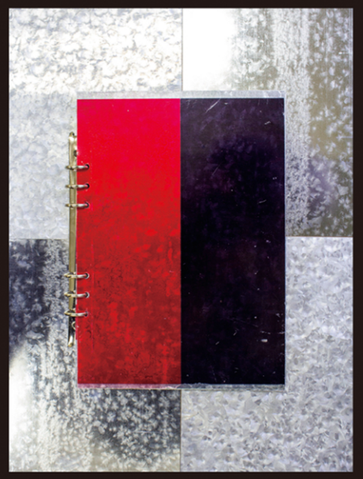
Ashiya City Museum of Art & History

本展では、関西を拠点に国内外で活動する、藤本由紀夫、高橋耕平、野原万里絵、黒田大スケの4名が、当館コレクションから注目する作家を選び、その作家像と併せて作品を様々な方法で読み解いていきます。彼／彼女らが創作者としての視点をもって、山崎つる子たち7名の思考や手業に近づきながら多様な方法でアプローチすることで、新たな作品解釈と共に、これまで表には出ていなかった個人史をも浮かび上がらせます。

藤本は、山崎つる子の《作品》（1964）を手掛かりに様々な角度から検証し、具体美術協会という枠を超えて山崎の世界の新しい発見を試みます。野原は、生涯にわたって約5,000点もの絵画を遺した山田正亮に注目しました。山田が残した作品や50冊以上に及ぶ制作ノートから、本質的な絵画への問いと「描く」という山田の思考を、画家の視点と制作という行為を通して導き、抽象絵画の新しい鑑賞方法を提示します。高橋は、人や作品、時代とのつながりを「対話」という形で拡張していった津高和一の活動から、現代における「対話」について考察し、津高が抽象絵画を描くに至る経緯や精神性などを検証していきます。黒田は、堀内正和、柳原義達、エミール＝アントワーヌ・ブールデルの3名の彫刻家とあわせて、田中敦子に注目し、アーティスト本人や周囲の人々の言葉を通して、各作家像に迫ります。

本展は、現代の作家が新たな視点をもって当館コレクションを調査・研究し、その研究成果としての展示空間＝「思考を深める場」を立ち上げる方法によって、新たな展望を提示します。

風を通す。



藤本由紀夫《y-memo》2023年　カラーシート、ブリキ、トタン

時　代　の　解　凍

藤本由紀夫／山崎つる子　高橋耕平／津高和一
野原万里絵／山田正亮
黒田大スケ／田中敦子、堀内正和、柳原義達
エミール＝アントワーヌ・ブールデル



野原万里絵《色彩への扉》2023年
パステル、色鉛筆、紙



高橋耕平《未定》2023年　インスタレーション一部

［関連イベント］

●オープニングイベント
アーティストによるギャラリートーク
2023年10月28日（土）14:00－16:00
講師＝藤本由紀夫、高橋耕平、野原万里絵、黒田大スケ
会場＝展示室
※参加無料、申込不要（ただし要観覧券）

●アーティストによるギャラリートーク
トーク1
2023年11月18日（土）14:00－16:00
講師＝黒田大スケ（美術家・出展作家）

トーク2
2023年12月9日（土）14:00－16:00
講師＝高橋耕平（美術家・出展作家）

トーク3
2023年12月23日（土）14:00－16:00
講師＝藤本由紀夫（アーティスト・出展作家）

会場＝講義室、展示室　対象＝どなたでも 60名
※参加無料、申込不要（ただし要観覧券）

●ワークショップ
「記憶の色図鑑づくり」
2023年11月25日（土）10:30－14:30
講師＝野原万里絵（画家・出展作家）
会場＝体験学習室　対象＝小学生以上 15名
材料費＝200円（高校生以上は要観覧券）
※要事前申込。11月15日締切。
応募者多数の場合は抽選。

*詳しくは当館HPをご覧ください

●アーティストと学芸員によるギャラリーツアー
2024年1月13日（土）藤本由紀夫と高橋耕平
2024年1月20日（土）野原万里絵と黒田大スケ
各回14:00－15:30
※参加無料、申込不要（ただし要観覧券）

●学芸員によるギャラリートーク
2023年11月11日（土）、12日（日）、
2024年1月8日（月・祝）　各回13:00－（約1時間）
※参加無料、申込不要（ただし要観覧券）
※11月11日、12日は無料観覧日



黒田大スケ《4匹》2023年　ドローイング

芦屋市立美術博物館
〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25
TEL 0797-38-5432　ashiya-museum.jp



◉ アクセス
徒歩＝阪神電車芦屋駅から南東へ約15分／阪急バス＝「新浜町」行きまたは「芦屋市総合公園前」行き（31・32・35・36・131系統）乗車、「緑町（美術博物館前）」下車、徒歩2分（バスのりば：阪神電車芦屋駅南側2番のりば、JR芦屋駅北側5番のりば、阪急電鉄芦屋川駅南側5番のりば）　※併設駐車場1時間無料

※すべて作家蔵